

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

令和4年3月27日

| | | | | | |
|------|-------------------|-----|------|-----------|--|
| 法人名 | 社会福祉法人共友会 | 代表者 | 岩尾 貢 | 法人・事業所の特徴 | 事業所はのどかな農村地区にあり、交通の便に不自由を感じている地域住民も多い。そのため「集う場所」「相談出来る場所」として、月1回「ミヤノ屋」「法話」の日を開催している。「ミヤノ屋」はおでんの日として住民も一緒に食事を楽しみ、地域住民からも「同じ町内だけどなかなか会えない人とも会うことができるとても楽しみにしている」と言う声が聞かれ、地域の方の出場所、居場所として拠点になっている。これまでの集客型ではなく、限界集落を含めた在宅支援として「訪問」中心に支えている利用者も多い。 |
| 事業所名 | 小規模多機能ホーム きんめい | 管理者 | 西 邦子 | | |

| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援センター | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計 |
|-----|-------|----------|-----------|-----|-------|------------|-------|-------|-----|-----|
| | 1人 | 1人 | 6人 | 1人 | 1人 | 1人 | 0人 | 2人 | 0人 | 13人 |

| 項目 | 前回の改善計画 | 前回の改善計画に対する取組み・結果 | 意見 | 今回の改善計画 |
|----------------|---|--|--|---|
| A. 事業所自己評価の確認 | <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の改善計画をスタッフが意識しやすいように日報にファイルする。 ・定期的にスタッフ会議にて改善計画について確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度については、スタッフ会議は行えず、昼のミーティングにて自己評価の意味や評価の仕方について伝え、評価の視点の資料を個別に渡した。 ・日報に改善計画をファイリングしているが、定期的に振り返ることはできなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価はパートさんも含め行っているためばらつきが出ている。評価の数字だけみたら、何もできていないように見える。パートさんがそこまで出来るのかと思う。 ・改善計画はスタッフ間の情報共有に重点をおいているものが多く達成可能な計画になっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・改善計画をスタッフが意識しやすいように日報にファイルする。 ・年2回改善計画を確認し、計画を徹底する。 |
| B. 事業所のしつらえ・環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍の為地域住民が事業所に気軽に立ち寄ることが出来ず「しつらえ・環境」については特に意見はなかった。来年度の状況は不明だが地域住民の声に耳を傾ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において事業所への立ち入りは禁止していた為、住民が野菜や花を届けてくれ時は外での対応を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業所には1度も入っていないので、居心地についてはわからないが、外から見る限りは利用者の笑顔もみられ居心地がよいのだと思う。 ・玄関は大きな戸があり入りやすいと思った | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で事業所に入れない状況が続くようであれば、運営推進会議(事業所外で予定)で利用者の様子から「居心地」について伝えていく。又施錠していない事についても理由も含め説明する。 |

| | | | | |
|--------------------------------|--|---|--|--|
| <p>C. 事業所と地域のかかわり</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・状況次第だが今年度出来なかった婦人会行事での事業所の紹介や学童保育とのクリスマス会を行う。 ・コロナの状況が改善されず「ミヤノ屋」「法話」が開催出来ず、又地域行事も再開出来なかった時にはこれまで以上に地域住民には挨拶の徹底を行う。 又スタッフは地域住民を意識し気になる方についてはスタッフ全員に申し送り必要時はブランチが訪問する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3月26日の金明地区老人会に参加し、事業所の紹介を行った。 ・今年度は地域や事業所行事がなく、計画は実行出来なかった。 ・今年度は「ミヤノ屋(おでんの会)」や「法話」は開催できなかったが、以前から参加していた住民へフレイル予防や熱中症予防のチラシを持って出向いた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・金明地区全体では事業所のことは7割くらいの人を知っていると思う。 ・スタッフの皆さんはきちんと挨拶をしてくれている。 ・「ミヤノ屋(おでんの会)」や「法話」がなかったので寂しかった。 ・子供を通して事業所を知ってもらうのはいいと思う。 ・中には入れないけど、畑の作物を持っていった ・地域の行事は出来なかった | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事の開催が減少しているが、参加可能な行事を住民に聞きながら参加していく。 ・事業所内行事(ミヤノ屋、法話)の再開についても状況を鑑みながら開催する。 |
| <p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は地域行事が殆ど中止になっていたため、利用者が住む地域の行事の再開には敏感になり、可能な限り参加する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事が殆ど中止になっており、参加できていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・テラスでくつろいでいる人とスタッフが話をしているのを良く見かけるので、利用者以外の人にもかかわっていると思った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の住む地域の行事の再開にも敏感になり、参加できるものについては積極的に参加する。 |
| <p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍の為運営推進会議は開催出来なかったが、来年度は状況次第だが運営推進会議は事業所以外(地区会館や町民会館)で行う | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の為対面での開催は地区会館にて12月に1回行った。その他はめ資料配布とした。 | <ul style="list-style-type: none"> ・12月に開催された運営推進会議は対面で直接話をきいたので、事業所の取り組みや利用者の様子がとても分かりやすかった。 ・書面ではわからない。 ・しめ縄づくりを利用者と行っていると感じた | <ul style="list-style-type: none"> ・会議はやはり参集型の方が、取り組みが伝わりやすく、又地域の声も聞くことが出来るので、可能な限り対面で行う。 |
| <p>F. 事業所の防災・災害対策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・年間6回の運営推進会議のうち1回を防災・災害について考える会とし地域が事業所に求める事や事業所が地域に協力をお願いする事等の意見交換を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練はコロナ禍の為に参加者を制限しての開催だったため参加していない。 ・運営推進会議の開催は1回のみだった | <ul style="list-style-type: none"> ・何かあったら、言われなくても助けに行く。 ・ここは海抜が高いので水害の場合地区会館より安全や。 ・事業所の防災計画は知らない ・地域との繋がりが強い事業所なので災害時には頼りになると思うが、頼りにしていいと知らない人もいます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で災害時での避難方法や、事業所で出来る事を伝えていく。 |